

< あなたの治療について >

呼内 - Nivo/Ipili - NSCLC - q6w

今回の治療は、Nivo/Ipili という治療法で、オプジーボ（NIV）とヤーボイ（IPI）という2種類の注射薬を併用して治療を行います。オプジーボ、ヤーボイは共に腫瘍の増殖を抑えるお薬です。2つの薬を組み合わせることで、より効果を高めることができます。

◎ 治療全体の流れ

今回の化学療法は6週間が1コースとなっています。各コースの1日目、15日目、29日目に点滴を行います。この治療を6週間（42日間）ごとに繰り返します。副作用が強く出たり、体調がすぐれない場合は回復するまで、治療を延期したり、お薬の量を減らしたりすることがあります。

◎ 1コース分の治療スケジュール

順序	薬剤商品名 (薬の作用)	投与	1日目	2~14日目	15日目	16~28日目	29日目	30~42日目
①	オプジーボ (抗がん剤) 240mg/body	点滴 約30分		お休み		お休み		お休み
30分、間隔をあけます								
②	ヤーボイ (抗がん剤) 1mg/kg	点滴 約30分			お休み		お休み	

★ 点滴中や点滴後に、注射部位が痛い、赤くなつてはれる、水ぶくれができる、ただれるなどの症状に気づいたときは、すぐに申し出てください。また点滴中は、腕を動かすことにより針がずれ、点滴漏れが生ずることがありますので気をつけて下さい。

◎起りやすい副作用について（頻度20%以上）

オプジーボ・ヤーボイによる

- 疲労
- そう痒症

◎特徴的な副作用について

オプジーボ・ヤーボイにおける

- *免疫チェックポイント阻害剤における副作用は、別添の資料を参照して下さい。
- *上記症状が現れたときは、必ず医師・看護師・薬剤師にご相談下さい。

◎薬品毎の副作用について（添付文書における重大な副作用を製薬会社作成「薬のしおり」などから抜粋）
まれな副作用ですが、この様な症状が現れた際には医師・薬剤師・看護師へご相談下さい。

【オプジーボ】

- [間質性肺疾患] 発熱、から咳、呼吸困難
- [重症筋無力症、心筋炎、筋炎、横紋筋融解症] 筋力低下、眼瞼下垂、呼吸困難、嚥下障害、筋肉の痛み、動悸、胸痛
- [大腸炎、小腸炎、重度の下痢] 持続する下痢、腹痛、血便
- [1型糖尿病] 口渇、吐き気、嘔吐、全身倦怠感、多尿
- [重篤な血液障害] 全身倦怠感、出血傾向、貧血症状、発熱、のどの痛み
- [劇症肝炎、肝不全、肝機能障害、肝炎、硬化性胆管炎] 全身倦怠感、食欲不振、皮膚や白目が黄色くなる、上腹部、特に右季肋部の痛み、かゆみ、出血傾向、意識障害
- [甲状腺機能障害] 全身倦怠感、むくみ、発汗、体重減少
- [下垂体機能障害] 体がだるい、意識の低下、血圧低下
- [神経障害] まひ、下半身が動かない、手足のしびれ、手足の痛み
- [腎障害] 尿量減少、顔のむくみ、眼がはれぼったい、頭痛
- [副腎障害] 全身倦怠感、意識がうすれる、嘔吐、食欲不振、低血圧
- [脳炎] 発熱、頭痛、嘔吐
- [重度の皮膚障害] 全身の赤い斑点と破れやすい水ぶくれ、赤い発疹、中央にむくみをともなった赤い斑点、発熱
- [静脈血栓塞栓症] むくみ、熱感、局所の痛み
- [インフュージョン・リアクション（薬剤注入に伴う反応）] 呼吸困難、意識障害、まぶた・唇・舌のはれ、発熱
- [血球貪食症候群] 発熱、左上腹部の圧迫感や痛み、リンパ節のはれ
- [結核] 寝汗をかく、体重が減る、体がだるい、微熱、咳が続く
- [膵炎] 激しい上腹部の痛み、腰部の痛み、発熱、吐き気、嘔吐、食欲不振

【ヤーボイ】

- [大腸炎、消化管穿孔、重度の下痢] 下痢、腹痛、血便
- [肝不全、肝機能障害] 全身倦怠感、食欲不振、黄疸
- [重度の皮膚障害] 発疹、皮膚のかゆみ、痛み
- [下垂体炎、下垂体機能低下症、甲状腺機能低下症、副腎機能不全] 頭痛、全身倦怠感、視野欠損
- [末梢神経障害] 手足のしびれ、痛み、感覚鈍麻、運動障害
- [腎障害] 尿量減少、顔のむくみ、眼がはれぼったい、頭痛
- [間質性肺疾患] 発熱、から咳、呼吸困難
- [筋炎] 筋力低下、筋肉の痛み、発熱
- [心筋炎] 努力性呼吸、息切れ、動悸、発熱、吐き気、嘔吐、全身倦怠感
- [インフュージョン・リアクション] 寒気、めまい、呼吸困難

◎上記のほかにも副作用が現れることがあります。
他にもからだの異常を感じたら、主治医や薬剤師、看護師に相談してください。